

令和7年度 江戸川区立第六葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子○思いやりのある子○やりぬく子○元気な子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○児童一人一人、教職員一人一人が輝き、笑顔があふれる学校 ○主体的に考え活動し、他者と豊かにかかわる子供 ○自己研鑽に励み、互いに学び合い、高め合う教職員
前年度までの本校の現状	成果	- 校内研究や授業観察の際には、主体的で協働的な学びを意識した授業作りを行ったため、教師の授業力が向上した。 - 校内での研修等を通じて、いじめ問題について理解を深めることができた。	課題	・習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。 ・「例年通り」を通例とするのではなく、地域、保護者、そして児童にとって何が最善かを考えながら、教育活動を見直していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価（A～D）		「中間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・習熟度別指導ガイドラインをもとに、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。 ・新聞記事を使った読解力向上教材（よむYOMUワークシート）を活用し、読解力向上を目指す。 ・2、3、6年生を対象に東京ベーシックドリルテストを4月、9月、1月に実施し、4、5年生を対象に江戸川区学力定着度調査を4月、7月、1月に実施し、確実に算数の学力向上を図る。 ・各学期1回の江戸川っ子study week！の実施を通して、家庭でのミライシートの活用を推奨する。 ・外部委託による放課後学習教室（4～6年）を週1回実施する。 ・年3回の校内授業観察他、校内研修や月1回程度の若手教員育成研修（フレッシュアーズの会）を実施する。 ・年8回の区小教研や各種研究会での学びを校内で交流する。	・児童質問調査において「国語の学習内容はよく分かりますか」「算数の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答を83％以上にする。 ・東京ベーシックドリル診断シート、江戸川区学力定着度調査の正答率（2～6年生）を60％にする。 ・保護者アンケート「先生たちは、わかりやすい授業を目指し、授業を工夫している。」の肯定的評価を90％にする。											
	○読書科の更なる充実	・蔵書分類の割合の最適化を目指し、近隣の区立図書館やPTAの図書ボランティアと連携し、図書室の環境整備を継続して行う。 ・保護者や外部機関との連携を図りながら、朝読書や読み聞かせ、読書科の授業などを通し、読書の楽しみや書誌による調べ学習のよさを見出せるよう指導する。 ・読書科ノートを活用する。 ・江戸川調べる学習コンクールに向けて、情報の分析や整理の仕方、自分の考えを表現する方法を指導する。 ・区立図書館との読書科連携授業を各学年で年1回実施する。	・90％以上の学級で江戸川調べる学習コンクールに向けて、読書科ノートを活用した授業を行う。 ・読み聞かせボランティアと協力し、すべての学級で読み聞かせを月に1回行う。 ・図書整備ボランティアと協力して月に2回学校図書館を整備する。 ・区立図書館職員によるブックトークを各学年年間1回以上実施する。 ・10月の読書月間に教職員による本の紹介を行う。											
体力の向上	○運動意欲・健康・体力の向上に向けた取組の実施・充実	・体育の授業改善 ・体力テストの実施と体力テストに向けた体力向上の取り組み ・年3回のなわとびチャレンジウィークの実施	・6月実施の体力テストにおいて、平均値を都平均と同水準にする。 ・100％の児童がなわとびの練習に参加する。											
教育の実現に向けた推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導、各教室のレイアウト等の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画やその評価について、保護者と共有し、支援の改善を図る。 ・特別支援教育委員会を年に9回実施する。 ・特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカーとの連携を図る。 ・特別支援教育校内研修を年1回実施し、支援について共通理解を図る。 ・副籍交流を実施する。	・配慮、支援を要する児童の把握を100％にする。 ・特別支援教育委員会の年9回実施を達成する。なお、必要があれば臨時校内委員会を実施する。 ・特別支援教育校内研修の年1回実施を達成する。 ・手紙による学級交流2名、直接交流1名を行う。											
不登校・いじめ対応の充実	・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・L-Gateの活用	・毎週金曜日生活指導夕会を行い、児童の情報や対応、生活指導連絡協議会の報告などを共有する。 ・年3回の児童アンケートを実施し、活用する。 ・いじめ対策委員会を年3回以上実施し、組織的に対応する。 ・いじめや不登校に関する情報ファイルを作成し、日常的な情報の共有を行う。 ・L-Gate毎日の記録の実施により児童の心の状態を把握し、学級経営の充実などに活用する。 ・日常的に、SSWや児童相談所など、他機関との連携を図る。 ・学年だけでなく、学校全体で生活指導上の問題点について対応していけるよう校内体制を整える。	・週に一度、生活指導についての校内連絡会を実施する。また年に2回の生活指導全体会を通して児童の共通理解を図る。 ・年3回のいじめ防止のアンケートを実施し、いじめ発見の機会をつくり、いじめ防止に努める。 ・不登校児童は関係諸機関とつながりのない児童数を0にする。 ・いじめに関する調査において未解決（解決後3か月経過前）の事案を10％以下にする。 ・保護者アンケート「学校は、子供たちの生活の様子を見守りながら、いじめや不登校などがない学校にするために取り組んでいる。」の肯定的評価を80％以上にする。											
学校（園）の地域社会に開かれたの実現	・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・HPやtotoruを活用しながら、学校だより、その他学校からのお知らせを配信する。 ・学校日記のページに学校の様子や給食の献立を毎日載せる。 ・学校説明会のお知らせを載せる。 ・学校行事の変更や学年行事などについては、決定次第、情報発信できるように努める。	・保護者アンケート「学校だよりやホームページなどで情報を発信している。」の肯定的評価を95％以上にする。											
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者や地域、学校評議員などからの日常の連絡や個人面談、運動会・学校公開・学芸の行事などの行事からアンケートを行う。 ・アンケートの結果をもとに地域、保護者、そして児童にとって何が最善かを考えながら、教育活動を見直していく。	・保護者アンケートで各項目の肯定的評価を80％以上にする。											
教育の展開 特色ある	・PTA活動や地域との連携を通した心豊かな児童の育成	・ろくっこキャンプ、ろくっこまつりなど、PTAと協力して開催する。 ・ネパール姉妹校協力を定期的に開催し、姉妹校であるジャナジョティ小学校との交流を実施する。 ・たてわり班活動での異学年交流を通じて、思いやりのある児童の育成を図る。 ・保護者による読み聞かせや、地域図書館と連携した読書活動を取り入れる。	・PTA行事で年2回以上の教員参加を目指す。 ・ネパール姉妹校協力委員会を学期に一度開催する。 ・たてわり班遊びや、仲良し給食などの学年交流を年間で10回以上設定する。 ・年度初めに読み聞かせの計画をする。西葛西図書館と連携して、読書月間にブックトークの実施を行い、読書に親しむ児童の育成を図る。											
	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・SSSを効果的に活用する。 ・月1回定時退勤日を設定し、保護者に周知する。 ・文書のペーパーレス化を推進する。 ・会議で話し合う内容の精選をする。 ・自動応答メッセージによる電話対応を実施する。	・毎月の勤務時間において、外在校時間4.5時間以上の教員を3名以内ににする。 ・会議の資料をクラウド上に保存する。 ・会議にかかる時間を平均40分以内ににする。 ・年間を通して同じ時刻に自動応答メッセージが流れるよう設定し、その時間を保護者に周知する。											